

ロシア

2007年上半期の対外貿易動向

世界市場におけるエネルギー製品価格の高騰および国内消費市場の拡大に牽引され、対外貿易高は増大を続けている（表1）。2007年上半期、貿易総額は2,400万ドル、前年同期比20%増を記録した。その内訳は、輸出が1,553億ドル、輸入が846億ドルであったが、増加率を前年同期比で見ると、輸出が8.6%増であったのに対し、輸入が48.7%増と大きく伸びた。

総じて、前年同期比の増加率で見た場合、東アジア3国との貿易実績が好調である。中国との貿易総額は165億ドル（39.1%増）となり、輸出は77億ドルで4.6%増に止まったが、輸入がほぼ倍増（88億ドル、95.3%増）し、2006年上半期時点とは逆にロシア側の入超に転じた。韓国との貿易総額は63億ドル（43.5%増）、輸出が22億ドル（91%増）、輸入が41億ドル（27%増）となった。

特に日ロ貿易が輸出入ともに好実績を続けている。貿易総額は85億ドルで前年同期比65%増となったが、その内訳は輸出が32億ドル（68.2%増）、輸入が53億ドル（63.1%増）となり、2006年以降の傾向である日本側からの出超が続いている。

尚、ロシアの対外貿易総額に占める割合は、中国が6.9%、日本が3.5%、韓国が2.6%であった。

「東方プログラム」¹

2007年9月7日、ロシア産業エネルギー省はガスプロムが5年をかけて策定した「東方プログラム」を承認した（過去の経緯については、本誌第68号参照）。なお、同プログラムの原典については、本稿脱稿時点で未公開である。

ガス生産4拠点の創設（括弧内は各々の目標）²：

- サハリン・ガス生産センター（サハリン大陸棚を開発し、サハリン州、ハバロフスク地方、沿海地方、ユダヤ自治州へのガス供給を図る；アジア太平洋諸国へのパイプライン・ガスおよびLNG 液化天然ガスの輸出を図る）
- ヤクート・ガス生産センター（チャヤンディンスク・ガス田を開発し、サハ共和国南部地区およびアムール州のガス化を図る；アジア太平洋諸国へのパイプライン・ガス輸出を図る）
- イルクーツク・ガス生産センター（イルクーツク州内のガス田を開発し、同州やチタ州、ブリヤート共和国ならびに必要なに応じて統一ガス供給システム United Gas Supply System³ へのガス供給を図る）
- クラスノヤルスク・ガス生産センター（クラスノヤルスク地方内のガス田を開発し、同地方や必要に応じて統一ガス供給システムへのガス供給を図る）

これら4拠点において、ガス精製・ガス化学産業を発展させる。

ロシア東部地域（東シベリア+極東）への供給量（生

（表1）ロシアの対外貿易（単位：100万ドル）

	2006年				2007年			
	総額	輸出	輸入	貿易総額全体に占める割合 (%)	総額 (前年比: %)	輸出 (前年比: %)	輸入 (前年比: %)	貿易総額全体に占める割合 (%)
全世界	199,900.2	142,983.8	56,916.4	100.0	239,921.5 (120.0)	155,299.5 (108.6)	84,622.0 (148.7)	100.0
EU (27カ国)	112,163.7	86,878.6	25,285.0	56.1	124,738.8 (111.2)	87,899.3 (101.2)	36,839.5 (145.7)	52.0
ドイツ	19,987.5	12,313.4	7,674.1	10.0	22,679.1 (113.5)	11,326.5 (92.0)	11,352.6 (147.9)	9.5
イタリア	14,932.1	12,626.0	2,306.2	7.5	15,111.9 (101.2)	11,512.5 (91.2)	3,599.5 (156.1)	6.3
オランダ	17,828.1	16,609.4	1,218.7	8.9	20,183.8 (113.2)	18,544.8 (111.7)	1,639.0 (134.5)	8.4
英国	6,656.1	5,112.6	1,543.4	3.3	7,808.6 (117.3)	5,305.0 (103.8)	2,503.6 (162.2)	3.3
フィンランド	6,219.9	4,483.6	1,736.3	3.1	6,714.8 (108.0)	4,630.1 (103.3)	2,084.7 (120.1)	2.8
フランス	5,972.0	3,754.5	2,217.5	3.0	6,799.2 (113.9)	3,548.9 (94.5)	3,250.2 (146.6)	2.8
アジア太平洋	32,392.8	164,525.4	15,967.4	16.2	44,430.5 (137.2)	18,999.6 (115.7)	25,430.9 (159.3)	18.5
中国	11,839.8	7,331.6	4,508.2	5.9	16,471.0 (139.1)	7,667.9 (104.6)	8,803.1 (195.3)	6.9
韓国	4,397.9	1,131.3	3,266.6	2.2	6,309.5 (143.5)	2,160.9 (191.0)	4,148.7 (127.0)	2.6
日本	5,134.8	1,898.5	3,236.3	2.6	8,471.9 (165.0)	3,194.2 (168.2)	5,277.7 (163.1)	3.5
米国	6,799.1	4,159.5	2,639.6	3.4	7,667.4 (112.8)	3,835.8 (92.2)	3,831.5 (145.2)	3.2
CIS諸国	28,762.6	19,228.2	9,534.4	14.4	36,818.8 (128.0)	23,242.7 (120.9)	13,576.2 (142.4)	15.3
ベラルーシ	9,320.6	6,263.5	3,057.1	4.7	11,206.7 (120.2)	7,271.7 (116.1)	3,935.0 (128.7)	4.7
カザフスタン	5,394.4	3,658.1	1,736.3	2.7	7,522.1 (139.4)	5,388.8 (147.3)	2,133.3 (122.9)	3.1
ウクライナ	10,833.8	7,066.8	3,767.0	5.4	13,740.0 (126.8)	7,538.8 (106.7)	6,201.2 (164.6)	5.7
その他								
トルコ	7,594.1	6,585.5	1,008.6	3.8	9,922.0 (130.7)	8,129.4 (123.4)	1,792.6 (177.7)	4.1
スイス	6,033.7	5,473.5	560.3	3.0	6,363.0 (105.5)	5,706.0 (104.2)	657.0 (117.3)	2.7

¹ 「中国市場およびその他アジア太平洋諸国への輸出を視野に入れた東シベリア・極東地域のガス生産・輸送・供給の統合システム構築プログラム」の略

² ロシア産業エネルギー省HP掲載プレスリリース（2007年9月7日）

³ 西シベリア以西（即ち、東シベリアと極東を除く）の地域に天然ガスを供給するパイプライン網のこと。

産過程でのロスを除く): 年間270億 m^3 (2020年)、年間320億 m^3 (2030年)。

予想される中国と韓国へのパイプライン・ガスの輸血量: 年間250~500億 m^3 (2020年以降)。

予想されるアジア太平洋諸国へのLNG輸血量; 210億 m^3 (2020年); 280億 m^3 (2030年)。

東方プログラムには、パイプラインルートを選択を含め、15のシナリオが含まれるが、そのうち(表2)の「Vostok-50」が有力候補の一つと伝えられる。

今後の主な注目ポイント(流動的要因):

- ▶ 東シベリアにおける天然ガス生産量のうち、どの程度西方(=UGS)への供給に回されるのか。
- ▶ ガスプロムの資金調達能力: どの程度自己資金の投入が可能であるのか。如何なる投資スキームを用意して積極的な外資導入を図るのか。
これに関しては、いま国家院で審議されている「地下資源利用に関する法」の改正状況によっても左右される。
- ▶ 2008年に公表と伝えられる「2030年までのロシア・エネルギー戦略」との整合性。
- ▶ 現在建設中の「東シベリア~太平洋間の原油パイプライン」ルートに並行して天然ガスパイプラインを建設することが一案とされているが、採算性の問題を含め、現時点で想像の域を全く出していない。
- ▶ 中国との価格交渉: 中国は、ロシアの天然ガスを長期的観点からすれば必要とする可能性が高いが、少なくとも近未来においては国内のガス生産が増産基調にあり、加えてトルクメニスタン~カザフスタン

経由の天然ガス輸入ルートも考慮していることから、ロシアに対し価格面で大幅な譲歩をする合理的理由を見出すことが難しい。

- ▶ ロシアの中国に対する天然ガス輸出構想は、多分に欧州諸国に対して価格交渉面で優位に立つための「カード」としての色彩が強い。しかし現時点で、ロシアが切る「中国カード」は、欧州が懸念するほど現実性を帯びたものではない。

(ERINA調査研究部研究主任 伊藤庄一)

(表2) Vostok-50の骨子

	UGSを含まない	UGSを含む
年間生産高(10億 m^3) (2030年)	120.8	162.3
国内向け供給量	70.8	112.3
輸出向け供給量	50.0	50.0
対中国	38.0	-
対韓国	12.0	-
投資総額(10億ドル) (2030年までの総額)	60.7	84.8
地質探査	8.3	10.1
開発・探査	19.0	45.3
ガス精製	10.4	
輸送インフラ整備	21.4	27.9
ガスとヘリウムの貯蔵	0.9	1.4
操業費総額(10億ドル) (2030年までの総額)		
生産関連	29.6	-
輸送関連	21.1	-
総収入(10億ドル) (2030年までの総額)		
ガス生産部門	1.3	2.6
ガス精製部門	2.1	2.7
ガス輸送部門	0.8	1.4
税収ほか財政収入(10億ドル) (2030年までの総額)	20.8	-

* UGS (統一ガス供給システム) / 出所: Vedomosti (2007年9月10日)